

## 隠れた人材を活用した女性研究者支援

(実施期間：平成19～21年度)

実施機関：独立行政法人物質・材料研究機構（代表者：潮田 資勝）

### 課題の概要

物質・材料研究機構で研究するすべての育児中女性研究者に対して研究の補助をする研究業務員を配属する一方、必要な研究業務員をいつでも配置できるように人材情報バンクを作成する。人材としてつくばにいる男性研究者の配偶者で育児のため研究をあきらめた女性、つまり隠れた人材に着目する。これらの人材を研究業務員として育成しながら、希望する研究業務員には、物質・材料研究機構に設置されている筑波大連携大学院への入学、博士号取得により、研究者として復帰できるキャリアパスを提供する。多様な勤務形態の実行を可能にし、育児のそれぞれのステージにおいて勤務形態を選んで研究を続けられるよう、勤務条件や休暇などの条件を整備し、男女ともに育児できる研究環境を構築する。環境整備後、次世代育成支援対策推進法に基づく認定を労働局から受け、育児と研究の両立が可能であることを若手女性研究者にアピールする。

#### (1) 総合評価（所期の計画と同等の取組が行われている）

つくばという地域性を活かし、人材情報バンク制度、研究業務員の雇用など様々な育児支援制度の創設により、研究を中断せざるを得なかった女性研究者が継続して活動するための支援体制の構築が図られたことは評価できる。また、女性研究者増加の数値目標の達成、優れた女性研究者の発掘・養成による研究職への復帰、女性研究者に再チャレンジキャリアパスを提供する取組に係る波及効果も評価できる。

<総合評価：A>

#### (2) 個別評価

##### ①目標達成度

女性研究者数増、人材情報バンクの作成、研究を中断せざるを得なかった女性研究者の活用など所期の目標をほぼ達成していることは評価できる。人材情報バンクには研究を一時中断した多くの女性研究者が登録をしており、当該バンクから13名の研究業務員が採用され、育児中の女性研究者の両立支援が行われていることが評価できる。また、次世代育成支援計画に基づく取組の進展、研究業務員から再チャレンジキャリアパス制度に基づく連携大学院への進学等も評価できる。

##### ②システム改革の成果

理事長のリーダーシップの下、男女共同参画委員会、男女共同参画デザイン室が設置され体制が整備されるとともに、特別休暇制度、育児休業制度などの制度改革や勤務時間短縮制度の整備が進められ、「くるみんマーク」の取得につながったことや、制度の適用範囲に任期制研究員が含まれていることは評価できる。また、人材情報バンク制度、研究業務員雇用支援制度等の導入により、育児中女性研究者の支援、研究を一時中断した女性研究者の研究復帰促進が図られていることも評価できる。今後とも、地域や研究所の特色を生かした取組が進められることを期待する。

##### ③取組の妥当性・効率性

女性研究者、男性研究者両方のニーズを踏まえ、かつ実効性の高い取組を取り上げ実施している。特に、女性研究者と機関幹部職員との懇談会の開催、アンケート調査結果等の取りまとめを通じて、女性研究者の実質的なニーズを捉え制度改革に反映させている点が評価できる。また、人材データベース「人なび」も有効に機能している。しかし、女性研究者の採用が、男性研究者と比較して任期付に偏っていることから、その要因分析と任期付研究員のキャリアパスに係る取組が必要である。

#### ④波及効果

つくば地域6研究機関と合同シンポジウムを開催し意識改革の促進に努めるとともに、合同シンポジウムに茨城県、つくば市など4つの地元自治体の参加があるなど、つくば地域において波及効果を及ぼしている。人材情報バンクは他機関との共有が容易に可能であり、つくば地域のみならず広範囲の波及効果が期待できる。育児中の女性研究者のみならず男性研究者へも支援を拡大していることから、男女ともに研究と育児が両立できる環境構築のモデルとしての広がりも期待できる。

#### ⑤実施体制の妥当性

機関の特徴を活かし、理事長のリーダーシップの下に機関全体の実施体制を構築し、実効性の高い取組を実施し成果を上げている点が評価できる。また、最終年度には男女共同参画デザイン室を理事長直轄として組織体制を強化している。今後とも、計画の具体化・実現に向けた体制が維持され機能していくことを期待する。

#### ⑥実施期間終了後における取組の継続性・発展性

女性研究者の増加、研究と育児の両立支援は、機関の今後の発展に不可欠な施策であるとの合意に基づき、事業終了後も、妥当な女性研究者支援体制及び予算措置が講じられていることから、継続性・発展性の確保が見込まれる。今後は、合意に至らなかった勤務時間の流動性の確保、業績評価基準等の作成などについても、その理由や必要な方策に係る検討が行われるとともに、新規採用の任期付女性研究者のキャリアアップに係る実質的な取組が継続されることを期待する。

### (3) 評価結果

総合評価	目標達成度	システム改革の成果	取組の妥当性・効率性	波及効果	実施体制の妥当性	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
A	a	a	a	a	a	a